安全データシート（ＳＤＳ）

作成日2025年12月21日
改訂日2026年 7月24日

１．化学品及び会社情報

化学品の名称	：	スプレーのりT22
整理番号	：	F-0025
会社名	：	株式会社戸谷染料商店
住所	：	東京都台東区浅草5-69-9
電話番号	：	03-3873-3111
緊急時の電話番号	：	03-3873-3111
ＦＡＸ番号	：	03-3873-3115
メールアドレス	：	chemical@toyas.co.jp
推奨用途	：	ダクト用強力接着スプレー
使用上の制限	：	推奨用途以外の用途へ使用する場合は専門家の判断を仰ぐこと

２．危険有害性の要約

化学品のGHS分類

物理化学的危険性	：	エアゾール	区分１
健康に対する有害性	：	皮膚腐食性／刺激性	区分２
		眼に対する重篤なの損傷性/目刺激性	区分２
		生殖毒性	区分２
		特定標的臓器毒性(単回ばく露)	区分３（気道刺激性、麻酔作用）
		特定標的臓器毒性(反復ばく露)	区分１（神経系）
		誤えん有害性	区分１
環境に対する有害性	：	水生環境有害性 短期(急性)	区分２
		水生環境有害性 長期(慢性)	区分２

（注） 物理化学的危険性、健康に対する有害性、環境に対する有害性に関し、上記以外の項目は現時点で 「分類できない」又は「区分に該当しない」であるため記載省略。

GHSラベル要素

絵表示又はシンボル ：



注意喚起語 ： 危険

危険有害性情報 ：
H222　極めて可燃性の高いエアゾール
H229　高圧容器：熱すると破裂のおそれ
H315　皮膚刺激
H319　強い眼刺激
H361　生殖能又は胎児への悪影響のおそれの疑い
H335　呼吸器への刺激のおそれ
H336　眠気又はめまいのおそれ
H372　長期にわたる、又は反復ばく露による臓器(神経系)の障害
H304　飲み込んで気道に侵入すると生命に危険のおそれ
H401　水生生物に毒性
H411　長期継続的影響によって水生生物に毒性

注意書き ： 【安全対策】
熱、高温のもの、火花、裸火及び他の着火源から遠ざけること。－禁煙。(P210)
裸火または他の着火源に噴霧しないこと。(P211)
防爆型の電気機器/換気装置/照明機器/施工機器を使用すること。火花を発生させない工具を使用すること。静電気放電に対する措置を講ずること。(P241+P242+P243)
屋外または換気の良い場所でのみ使用すること。(P271)
保護手袋/保護衣/保護眼鏡/保護面を着用すること。(P280)

粉じん/煙/ガス/ミスト/蒸気/スプレーを吸入しないこと。(P260)
環境への放出を避けること。(P273)
この製品を使用する時に、飲食または喫煙をしないこと。(P270)
取り扱い後は手、口、顔をよく洗うこと。(P264)
使用後を含め、穴を開けたり燃やしたりしないこと。(P251)
使用前に安全情報シート（ＳＤＳ）を参照すること。全ての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。(P202)
【応急措置】
飲み込んだ場合、無理に吐かせないこと。直ちに医師に連絡すること。(P301+P310+P331)
吸入した場合、空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。気分が悪い時は、医師に連絡すること。
(P304+P340+P312)
皮膚又は髪に付着した場合、直ちに汚染された衣類をすべて脱ぐこと。皮膚又は髪を水/シャワーで洗うこと。(P303+P361+P353)
皮膚刺激が生じた場合、医師の診察/手当てを受けること。
(P332+P313)
眼に入った場合、水で数分間注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。(P305+P351+P338)
眼の刺激が続く場合、医師の診察/手当てを受けること。
(P337+P313)
気分が悪い時は、医師の診察/手当てを受けること。(P314)
ばく露またはばく露の懸念がある場合：医師の診察/手当てを受けること。(P308+P313)
汚染された衣類を脱ぎ、再使用する場合には洗濯をすること。
(P362+P364)
火災の場合、消火するために指定の消火剤を使用すること。
(P370+P378)
漏出物を回収すること。(P391)
【保　　管】
施錠して保管すること。(P405)
換気の良い場所で保管すること。涼しいところに置くこと。容器を密閉しておくこと。(P403+P233+P235)
法令で定められた限度内で保管すること。
日光から遮断し、40°C 以上の温度にばく露しないこと。
(P410+P412)
【廃　　棄】
内容物を使い切ってから廃棄すること。
内容物/容器を国際/国/都道府県/市町村の規則に従って廃棄すること。(P501)
有毒ガスが発生する場合があるので、燃やさないこと。

３．組成及び成分情報

化学物質・混合物の区分　：　混合物

成分	含有量(wt%)	CAS No.	化審法番号
ノルマルヘキサン	40-44	110-54-3	2-6
スチレンブタジエン系樹脂	16-20	―	非該当
ジメチルエーテル	38-42	115-10-6	2-360

４．応急措置

応急措置 一般　：　直ちに医師の診察を受ける。
吸入した場合　：　空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。
気分が悪いときは、医師の診断、手当てを受けること。
皮膚に付着した場合　：　皮膚を流水、シャワーで洗うこと。
汚染された衣類を直ちに全て脱ぐこと。
皮膚刺激が生じた場合は、医師の診断、手当てを受けること。
目に入った場合　：　予防措置として水で眼を洗う。
水で数分間注意深く洗うこと。コンタクトレンズを着用していて容易に 外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。
眼刺激が続く場合は、医師の診断、手当を受けること。

飲み込んだ場合　：　水で口の中をよく洗い、直ちに医師の診断を受ける。無理に吐き出させないようにする。

予想される急性症状及び遅発性症状　：　吸入すると、めまい、頭痛、吐き気を起こす恐れがある。
皮膚に接触すると炎症を起こす可能性がある。
ミスト、蒸気を吸入すると気分が悪くなることがある。

応急措置をする者の保護　：　救助者は状況に応じて適切な保護具を着用する。
火気に注意する。

５．火災時の措置

適切な消火剤　：　二酸化炭素（CO2）、粉末消火剤、耐アルコール泡消火剤、乾燥砂。

使ってはならない消火剤　：　棒状注水（火災を広げる恐れがあるため。霧状の水（水噴霧）は容器の冷却目的のみに使用すること。）

特有の危険有害性　：　極めて可燃性の高いエアゾール。
加熱により容器内の圧力が上昇し、破裂または爆発する恐れがある。
火災によって有毒ガスを発生する恐れがある。
蒸気は空気より重いため、床面に沿って広がり、離れた火源によって引火・逆火する恐れがある。

特有の消火方法　：　危険でなければ、容器を火災地域から安全な場所へ移動させる。
移動不可能な場合は、周囲の容器や設備に大量の水を噴霧し、十分に冷却をして爆発を防ぐ。
消火活動は、必ず風上から行う。
大規模火災は泡消火剤で空気を遮断する。

消火を行う者の保護　：　消火作業は適切な保護具（自給式呼吸器、防火服、防火面等）を着用する。
皮膚への付着やガスの吸入を避けるための装備を徹底する。

６．漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具および緊急時措置

一般的措置　：　十分に換気すること。
処理作業の際には保護具(ゴム手袋、保護眼鏡、保護衣、呼吸用保護具等)を 着用し、飛沫が皮膚に付着したり、ガス・蒸気を吸入しないようにすること。
必ず風上から作業し、風下の人を退避させること。
安全なエリアに人員を避難させる。

非緊急対応者
応急処置　：　直ちに周囲の火源（火花、裸火、高温物）をすべて除去し、禁煙を徹底する。
漏出エリアを換気する。
皮膚、眼との接触を避ける。

緊急対応者
保護具　：　適切な保護具を着用して作業する。第８項の「ばく露及び保護措置」を参照、静電気防止を施した作業衣および安全靴を着用することが望ましい。

環境に対する注意事項　：　環境への放出を避けること。
側溝、下水、河川に流出しないよう注意する。
流失した製品が河川等に排出され、環境への影響を起こさないよう注意する。
流出した製品が河川等に排出され、環境への影響（魚毒性等）を起こさないよう、土砂やマットで防護する。

封じ込め及び浄化の方法及び機材
浄化方法　：　少量の漏出等；乾燥した砂、土、または吸収剤（オイルフェンス等）で拡散した液体を吸収させ、蓋のできる空容器に回収する。
大量の漏出等；盛土（土砂等）で流出を阻止し、安全な場所に導いてから回収する。

二次災害の防止策　：　本製品が下水、または公共用水に流出した場合も、直ちに消防・保健所等に通報する。
排水溝または水路への侵入を防ぐ。
着火した場合に備えて、適切な消火器(粉末、CO2)を準備する。

7．取扱い及び保管上の注意

取扱い

技術的対策　：　使用前にすべての安全注意を読み理解すること。
火花、裸火、高温のもののような着火源から遠ざけること。ー禁煙。
静電気放電に対する措置を講ずること。容器や装置は必ず接地（アース）する。
火花が出ない工具（防爆型）を使用すること。

局所排気・全体換気　：　「８．ばく露防止及び保護具措置」に記載の局所排気、全体換気を行う。
屋外または換気の良い場所でのみ使用すること。

安全取扱い注意事項　：　作業所の十分な換気を確保する。
粉じん／煙／ガス／ミスト／蒸気／スプレーを吸入しないこと。
粉じん／煙／ガス／ミスト／蒸気／スプレーの吸入を避けること。
熱、火花、裸火、高温のもののような着火源から遠ざけること。ー禁煙。
静電気放電に対する予防措置を講ずること。
屋外又は換気の良い場所でのみ使用すること。
皮膚、眼との接触を避ける。

衛生対策　：　汚染された衣類を再使用する場合には洗濯をすること。
この製品を使用するときに、飲食又は喫煙をしないこと。
製品取扱い後はよく手を洗い、うがいを十分に行う。

保管

技術的対策　：　容器を密閉して保管すること。
施錠して保管すること。

適切な保管条件　：　直射日光を避け、40°C以上の温度にばく露しないこと。
換気の良い冷暗所に保管すること。
酸化剤などの混触危険物質から離して保管すること。
転倒、落下、衝撃を避け、火気のない場所に保管する。

安全な容器包装材料　：　製造者の規定する容器（エアゾール缶）のまま保管する。

8．ばく露防止及び保護措置

化学名又は一般名	管理濃度	許容濃度		
		日本産業衛生学会	ACGIH	
			TWA	STEL
ノルマルヘキサン	40ppm	40ppm	50ppm	ー
ジメチルエーテル	ー	ー	ー	ー

設備対策　：　ガスが滞留しないよう、局所排気装置または全体換気装置を設置する。
高濃度の蒸気が発生する場所では、防爆型の換気設備を使用する。
取扱い場所の近くに、洗顔および身体洗浄のための設備（シャワー等）を設置する。
静電気放電を防ぐため、すべての装置を接地（アース）する。

保護具

呼吸器の保護具　：　有機ガス用防毒マスクを着用すること。送気マスクまたは空気呼吸器の使用が望ましい。

手の保護具　：　耐溶剤性の保護手袋を着用すること（ニトリルゴム、フッ素ゴム等が推奨される。天然ゴムやビニール製は不適切）

眼の保護具　：　保護眼鏡。（側板付き）、またはゴーグル型保護眼鏡を着用すること。

皮膚及び身体の保護具　：　静電気防止用作業服および安全靴を着用すること。

適切な衛生対策　：　取扱い後は汚染箇所をよく洗うこと。
作業後、手を十分に洗い、うがいをする。

9．物理的及び化学的性質

物理状態　：　[内用液]液体/ [噴射剤(ジメチルエーテル)]
大気圧下；気体、容器内；液体

色　：　[内用液]無色透明/[噴射剤(ジメチルエーテル)]

臭い　：　[内用液]特有臭/ [噴射剤(ジメチルエーテル)] 特有臭

pH	：	データなし
融点／凝固点	：	データなし
沸点又は初留点及び沸点範囲	：	69°C（ノルマルヘキサン）、－24.8°C [噴射剤(ジメチルエーテル)]
引火点	：	－22°C　（ノルマルヘキサン）、－42°C [噴射剤(ジメチルエーテル)]
自然発火点	：	225°C　（ノルマルヘキサン）、350°C [噴射剤(ジメチルエーテル)]
分解温度	：	データなし
蒸気圧	：	データなし
相対蒸気密度（空気＝１）	：	データなし
密度及び/又は相対密度(比重)	：	約0.75±0.05（20°C）原液
溶解度	：	水に不溶
n-オクタノール/水分配係数(log値)	：	データなし
爆発下限界及び爆発上限界／可燃限界	：	1.1－7.5vol％（ノルマルヘキサン） 3.4－27.0vol％ [噴射剤(ジメチルエーテル)]
粒子特性	：	データなし

10. 安定性及び反応性

化学的安定性	：	通常の保管および取扱い条件下では安定であるが、高圧ガスを使用したエアゾール製品であるため、熱に対しては不安定（破裂の危険）である。
反応性	：	通常の取扱い条件では安定である。
危険有害反応可能性	：	通常の使用条件下において、危険な反応は全く知られていない。 自己反応性はない。 強アルカリ、強酸化剤と化学反応を起こす。
避けるべき条件	：	直射日光、高温（40°C以上）。 火花、裸火、高温体などの着火源。
混触危険物質	：	強酸化剤、強塩基。
危険有害な分解生成物	：	燃焼または熱分解により、一酸化炭素等の有毒ガスが発生する。

11. 有害性情報

急性毒性（経口）	：	区分に該当しない（ノルマルヘキサン　LD50　ラット　15,840mg/kg）
急性毒性（経皮）	：	分類できない（ノルマルヘキサン　データなし）
急性毒性（吸入：蒸気）	：	区分に該当しない（ノルマルヘキサン　LC50　ラット　48,000ppm/4H）
皮膚腐食性／刺激性	：	区分２　皮膚刺激
眼に対する重篤な損傷性／眼刺激性	：	区分２　強い眼刺激
呼吸器感作性	：	分類できない
皮膚感作性	：	区分に該当しない
生殖細胞変異原性	：	区分に該当しない
発がん性	：	分類できない
生殖毒性	：	区分２　生殖能または胎児への悪影響のおそれの疑い
特定標的臓器毒性－単回ばく露	：	区分３　呼吸器への刺激のおそれ、眠気又はめまいのおそれ
特定標的臓器毒性－反復ばく露	：	区分１　長期にわたる、又は反復ばく露による臓器(神経系)の障害
誤えん有害性	：	区分１　飲込みこんで気道に侵入すると生命に危険のおそれ

12. 環境影響情報

水生環境有害性 短期(急性)	：	(毒性乗率×10区分1）+区分2が濃度限界（25％）以上のため、区分２とした。 水生生物に毒性
水生環境有害性 長期(慢性)	：	(毒性乗率×10区分1）+区分2が濃度限界（25％）以上のため、区分２とした。 長期継続的影響によって水生生物に毒性
生態毒性	：	ノルマルヘキサン　EC50（48ｈ）3.88㎎/L　甲殻類（オオミジンコ） ジメチルエーテル　LC50（96ｈ）>4,000㎎/L　魚類（ｸﾞｯﾋﾟｰ）
残留性・分解性	：	データなし
生態蓄積性	：	データなし
土壌中の移動性	：	データなし
オゾン層への有害性	：	データなし

13. 廃棄上の注意

残余廃棄物	：	内容物を完全に使い切ってから廃棄すること。 噴射剤（ガス）が残っている場合は、火気のない風通しの良い屋外で、キャップ等を利用した「ガス抜き」を行い、残ガスを完全に取り除くこと。 産業廃棄物として処理する場合は、都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に委託すること。 廃棄物処理法および関係法令を遵守し、不法投棄や下水・河川への排出を絶対に行わないこと。
汚染容器及び包装	：	容器（スプレー缶）は、地域の自治体が定める分別区分に従って廃棄すること。 容器を廃棄する際、穴開けの要否については自治体の指示に従うこと。 容器を火中に投じたり、焼却炉で処理したりしないこと（爆発の危険があるため）。
追加情報	：	引火性蒸気が容器内に蓄積することがある。

14. 輸送上の注意

国際規制

海上規制情報	：	IMO（国際海事機関）の規定に従う。
国連番号	：	UN1950
品名	：	AEROSOLS
クラス	：	2.1（引火性ガス）
容器等級	：	なし
海洋汚染物質	：	海洋汚染物質C類（ノルマルヘキサン）
航空規制情報	：	ICAO（国際民間航空機関）／IATA（国際航空運送協会）の規定に従う。
国連番号	：	UN1950
品名	：	AEROSOLS, flammable
クラス	：	2.1

国内規制

陸上輸送	：	消防法、高圧ガス保安法の規定に従う。
海上規制情報	：	船舶安全法の規定に従う。
航空規制情報	：	航空法の規定に従う。
緊急時応急措置指針番号	：	126
特別の安全対策	：	輸送前に容器の漏れがないか確認すること。 荷崩れの防止を確実に行い、容器の破損、腐食、転倒、落下がないように積載する。 直射日光を避け、容器の温度が40℃以上にならないように管理すること。

15. 適用法令

労働安全衛生法

名称等を表示すべき有害物	：	ヘキサン（規則別表第2の1861　令和7年4月1日施行） ジメチルエーテル（規則別表第2の1011　令和8年4月1日施行）
名称等を通知すべき有害物	：	ヘキサン（規則別表第2の1861　令和7年4月1日施行） ジメチルエーテル（規則別表第2の1011　令和8年4月1日施行）
有機溶剤中毒予防規則	：	ノルマルヘキサン（別表第六の二　39号）
皮膚等障害化学物質等及び特別規則に基づく不浸透性の保護具等の使用義務物質	：	皮膚吸収性有害物質　ヘキサン　（令和6年4月1日施行）
作業環境評価基準で定める管理濃度	：	通し番号64　ノルマルヘキサン　40ppm
毒物及び劇物取締法	：	該当せず

化学物質排出管理促進法（ＰＲＴＲ法）

第1種指定化学物質	：	ノルマルヘキサン　　政令番号（1-436）管理番号（392）
消防法	：	第4類（引火性液体）第1石油類非水溶性　危険等級Ⅱ
船舶安全法（危規則）	：	危規則第３条危険物等級３引火性液体類
航空法	：	引火性ガス（クラス2.1）；該当（エアゾール、国連番号1950）
海洋汚染物質	：	有害液体物質（Ｙ類物質）（施行令別表第１）

水質汚濁防止法　：　有害物質及び指定物質を含有しない(第２条２項、４項)
大気汚染防止法　：　ノルマルヘキサン　【中央環境審議会第９次答申】
有害大気汚染物質に該当する可能性がある物質
ノルマルヘキサン　揮発性有機化合物（法第２条第４項）
（環境省から都道府県への通達）
ジメチルエーテル　有害大気汚染物質（法第２条第13項）

16. その他の情報
参考文献　：　NITE化学物質総合情報提供システム（(独)製品評価技術基盤機構）
NITE統合版　政府によるGHS分類結果（(独)製品評価技術基盤機構）
原料メーカーのSDS

その他　：　「記載内容の取扱い」
この情報は、新しい知見に基づき改訂されることがあります。
記載内容は現時点で入手できた資料・情報・データ等に基づいて作成しておりますが、含有量、物理・化学的性質、危険・有害性等に関しては、いかなる保証をなすものではありません。
また、注意事項は通常の取扱いを対象としたもので、特殊な取扱いの場合には、用途・用法に適した安全策を実施の上、ご使用下さい。